

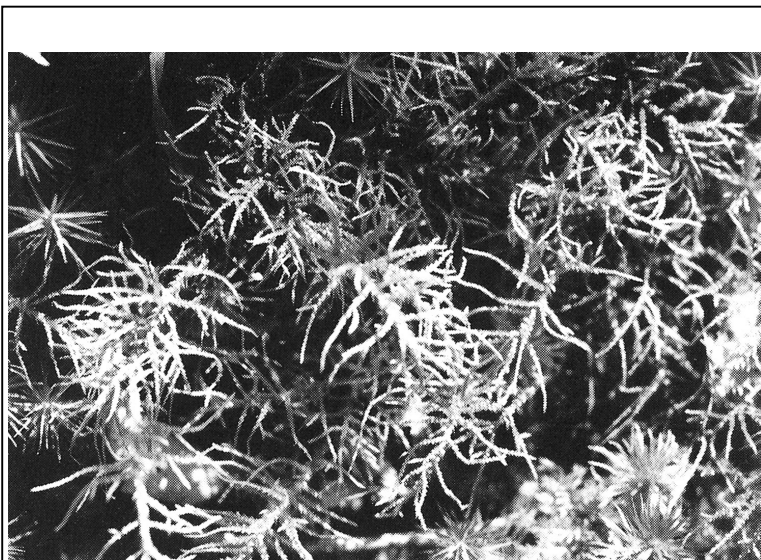
シノブヒバゴケ *Hylocomiastrum himalayanum* (Mitt.) Broth.

【評価理由】

天竜奥三河国定公園内の 2 ヶ所から記録されている県内稀産の種である。植物地理学的にも東亜ヒマラヤ要素の一種と考えられる。中部山岳地帯の高所に普産するが、南下の一つの鋒先が愛知県北部の高所に達しているものとして、産地を保全する必要がある。

【形態】

大形のセン類で、茎は斜上し、細長い枝が不規則に出て、樹形をなす。茎葉は三角形、葉面には深い縦じわがある。枝葉は広卵形、葉縁は全周に鋭い鋸歯があり、茎葉と同じく葉面に深い縦じわがある。



植物体. 北設楽郡設楽町. 高木典雄 撮影

【分布の概要】

【県内の分布】

設楽町面ノ木峠西方、豊根村茶白山の標高 1,300m 付近の 2 ヶ所で記録されている。いずれも奥三河高原地帯である。

【国内の分布】

本州から九州までの寒冷な高地に分布する。

【世界の分布】

朝鮮半島、台湾、ヒマラヤに分布する。維管束植物で知られている東亜ヒマラヤ要素とその軌を一にしているものと思われる。

【生育地の環境／生態的特性】

高冷地林内の腐植質の多い湿った地上や岩上にゆるい群落を作る。

【現在の生育状況／減少の要因】

県内では奥三河の高冷地 2 ヶ所から記録されている。その後の現地確認はされていないが、いずれも天竜奥三河国定公園に指定されている地域であり、開発行為等からは保護され現在も生育しているものと判断される。

【保全上の留意点】

日本中部の高冷地では普産の種であるが、県内ではその余波として、温帯林の地表にかろうじて生育しているものであり、生育地の樹林自体の保護が必要である。

【特記事項】

本種は、愛知県のセン類フロラが分布地理学的にいかなる要素により成り立っているかを示唆する資料として重要である。学名にヒマラヤの名があるように、東アジアの高地要素で、愛知県のセン類フロラ的一端が学名の上にも表れている。知られた産地は少ないが、今後発見されるであろう新産地も含め、生育地の共通性について明らかにすれば、分布の機構解明に役立つものと思われる。

【関連文献】

高木典雄, 1982. 茶白山の蘚類植物. 鳳来寺山自然科学博物館館報, (11): 1-6.

県内分布図

